

神奈川・北条小町邸跡

ほうじょうこまちてい

- 1 所在地 神奈川県鎌倉市雪ノ下一丁目
- 2 調査期間 一九九六年(平8)八月―一〇月
- 3 発掘機関 鎌倉市教育委員会・北条小町邸発掘調査団
- 4 調査担当者 原 廣志
- 5 遺跡の種類 居館跡
- 6 遺跡の年代 鎌倉時代―江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡は鶴岡八幡宮前面で若宮大路東側の地域にあたり、北辺を横大路、西辺を若宮大路、東辺を小町大路に囲まれた、一辺二〇〇m



(横須賀)

程の一画内に含まれる。この一画は、鎌倉時代中期から後期に若宮大路幕府(御所)、または執権北条泰時や時頼らの正亭所在地ともいわれ、鎌倉の政治的中心としてもっとも重視された場所である。調査地点は遺跡内の若宮大路に面した南

西隅の一角に位置する。

検出した遺構は、大別して鎌倉時代と江戸時代に分かれるが、木簡が出土したのは鎌倉時代の若宮大路の東側溝からである。鎌倉時代前期の側溝は、現在の大路歩道に接した幅三mで逆台形の箱掘と、その東側にあるV字形の薬研掘の溝である。鎌倉時代中期以降は、これらを埋めて若宮大路が拡幅され、側溝は木組み構造に変化している。木組み側溝は箱掘状にした掘形底の両脇に約三m幅で、ほぞ穴を切った長さ四m程の土台材(角材)を据え、ほぞ穴に束柱を立て、地表の高さで束柱上にほぞ空きの角材をのせ、外側の土壁を横板材でおさえており、少なくとも三回の造り替えが認められた。木組み側溝は、出土遺物からみて南北朝時代前期までは存続していたようである。

遺物は、それぞれの側溝を中心に、かわらけ、舶載陶磁器、渥美・瀬戸・常滑窯の国産陶器のほか、木器も大量に出土した。木器には、漆器皿・椀、漆塗り櫛、下駄、箸、曲物などがある。かわらけには内面に「即」を連書した墨書土器がある。

木簡は五点出土したが、いずれも木組み側溝からである。これらは側溝底部の土台材の継ぎ目付近から出土した。このうちの一点は笹塔婆である。

8 木簡の釈文・内容

- (1) 「一丈」
512×(48)×5 051
- (2) 「□□□□□□□□」
(271)×(57)×7 081
- (3) 「□□の□□」
(275)×55×5 059
- (4) 「□□□□□□□□」
(302)×(26)×3 081
- (5) 「く南無葉師如」
(380)×22×3 061
- 〔来カ〕
- (1)は大型で、上端は両角をやや削り、下端を両側から削って尖らせている。(2)(3)も折損しているが、(1)に近い形状と考えられる。(5)は上端を圭頭状に削り、二カ所に左右の切り込みをもつ。
- 遺跡内の大路沿い二地点からは、「一丈伊北太郎跡」や「二けんおおぬきの二ろう」などの若宮大路側溝の工事に際し、幕府が御家人に分担・奉仕させた負担工区を表示した木簡が出土している(本誌七・一八号)。今回出土の木簡も多くが判読不能ながら、出土地点、その形態や内容から比較して同じ性格のものと考えられる。

9 関係文献

鎌倉市教育委員会『北条泰時・時頼邸跡』(一九八五年)
同「北条小町邸跡(泰時・時頼邸)」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12 平成七年度発掘調査報告(第二分冊)』(一九九六年)

(原 廣志)

